

名古屋市立大学開学六十五周年記念事業映画企画

「タイトル案」

(ゆめどけい)

「夢時計」

～1950年の名古屋市と大学生活～





平成十二年制定



昭和二十五年制定



学生徽章

(名古屋市立大学 学章・徽章)

「企画概要」

戦後復興期の昭和二十五年と平成（現代）を舞台に六十五年の時を経て現代の便利さがもたらしたものと失ったものや家族や友情や心の絆をテーマに、かつての時代（激動の昭和初期）や大学の在り方に学ぶべきものや現在に失ったものなどの問題点を対比させて描き考察してゆく物語。

「自由」や「ゆとり」「物資」などは当時より現代のほうがより豊かになったが、それらを有効活用できていない（あるいはありがたみを忘れている）ことなどを訴求していきたい。そしてそれを悲観することなく考え方次第で未来が明るく開けてゆくという希望のある作品としたい。

「テーマ」

名古屋市立大学創立当時（六十五年前）と現在の社会の様々な違い（戦後の占領時代と現代の超高齢少子化社会の比較）、不便だった頃と現在の便利さの副作用（例・情報過多による弊害、コミュニケーションの手段が発達したことによって失われた「気遣いの言動」や電動アシスト自転車やGPSがないとどこへも行けない人間の体力や気力の低下、ファストフードの多用などによる生活習慣の問題など）また、災害や戦争のような大きな事柄も六十五年（時が）経てば忘れてしまう人間の儂さや浅はかさ。便利になって器用になってそして可処分時間が増えたことによって我々は何をしてきたのか？ 何をしようとしているのか？ などを問題提起する。一方で何かのきっかけがあれば人間は反省し、気づき、逞しく変化していく存在であることを表現したい。

「手法」

ドラマ形式。また適宜ドキュメンタリータッチや当時の記録写真などを起用し歴史教育（検証）的要素を取り入れながらフィクションの設定や登場人物ではあっても科学的、歴史的史実に基づいた作品とする。また写真や当時の音楽などを多用しリアルな時代設定を心がける。

また、冬の場合と夏の場合、過去の時代と現代、二役を演じる役者の対称的なキャラクター作りの面白さなどにより、テーマとなる現在と過去の様々な側面における演出的対比手法としたい。

「キーワードなど」

超高齢少子化社会、大学生の勉強に対する真摯な姿勢の今昔、今と昔の大学の在処の比較、現在と開学当時の世相、文化的社会的背景、現代の便利さの弊害、コミュニケーションのあり方（インターネットやメール、手紙、会話、何かを協働で行うこと、弱者への思いやり、競争社会など）、目的意識や何かを成し遂げようとすることの大切さ、物資が乏しいからこそ工夫したり我慢したり助け合ったりした人間の美しさを知恵。

ジェーン台風（1950年 9/3-4日 死者398名行方不明141名 大阪/兵庫/和歌山を中心に大きな被害）

GHQ占領（1945-1952）日本の分割統治計画案（ソ連、アメリカ、イギリス、中国）

自由学校（小説 獅子文六）東京キッド（美空ひばり）

GHQによる武道の禁止（1946-1951）と剣道の復活（竹刀競技の確立）大学生の今昔の違いや現代のゆとり教

育と大正時代の高等教育機関への進学率（当時の大学進学率は10%以下 文部科学省調べ）物資欠乏と物余り、現代のスマホ中毒（依存症）、草食系男子、肉食系女子、少子化VS戦後の子沢山の家族の姿、イカレポンチ（流行の小説「自由大学」からの派生流行語）

相抜け（あいぬけ）剣術における最高の技術のひとつ。相手を負かすのではなく、にらみ合いの引き分けでもなく、高い技術をもつ互いが認め合い、技術を引き出し合って傷つけ合うことなく勝負を終わる技。歴史的著述でも具体的な描写は現存しない）など。

医学、薬学の伝来、シーボルト、ポンペ、最古の病院（長崎）、薬学の必要性と誕生など。

「撮影等予定」

第一回撮影 2015年八月中の10-12日間程度（夏の場面）大正村や伊豆白浜の海辺、大井川鉄道など）夏場の撮影の方が衣装など、当時のもの（衣装や小道具など）を集めるのが少なくて済むか。

第二回撮影 2015年十二月末・一月くらいに10-12日間程度（冬の場面 現代）於大学やスタジオ、電車、おなみ線など、防空壕など。大牧または桑名の防空壕）

2015秋～冬に編集/音づけ 2016年春頃公開予定（ミッドランドスクエアシネマなど）

「あらすじ」

2015年。江木ジェーンは両親と自宅で三人暮らしである。

地方都市の市立大学(2・3年生位 名古屋市立大学 薬学部)に通う合理主義(と本人は思っているが周りから視ると実は能率主義、本当の意味では考えていない)の学生である。ことあるごとに両親から「あなたのおかしな日本人離れした名前はあなたのおばあちゃんがつけた」と言われている。

高校までは本格的に剣道部の活動をしていたが大学では剣道部に所属するもサボり気味。薬学部を選んだのも強い動機があつてのことではない。漠然と薬学概論の授業を聴講しているジェーン。講義のなかで現代の超少子高齢化社会と比較して1950年の占領下の日本と分割占領案や当時の人々の疾患と栄養状態、ジェーン台風がもたらした災害規模と社会情勢から災害の規模が正確迅速に情報伝達されなかった背景などについて聞かされてくる。

翌朝、線香を仏壇にあげると戦後に結核でなくなったおばあちゃんの妹の写真などがなぜか目に入る。出かける間際ダメージデニムなどのファッションを品がないと両親に叱られるが聞く耳をもたないジェーン。その日の授業のなかで課題(「近・現代における薬物療法と社会情勢の関連」≡現代と比較した人口構成や社会情勢、終戦の混乱期やGHQの占領政策および薬物療法などについての調査レポート作成)が出され、友人たちと太平洋戦争当時の防空壕を見学に行くことになる。ジェーンが階段を降りていき行って行った古い掛時計のゼンマイを巻いてみると激しく時報の鐘が鳴りだし勢いよく針が逆回転し始める(暗転)

気がつくとも1950年の日本（実は六十五年前の大学）にいた。そこで大学生時代の江木夢子（ジェーンの祖母の若い時代）と遭遇する。夢子に剣道場で不審者と間違われ、竹刀で叩かれて気を失うジェーン。

目覚めるとそこは六十五年前の江木家であり、そこは自分の曾じいさんと曾ばあさん（当時は四十代）と江木佳江（当時十六歳。夢子の妹）が暮らしている家だった。ジェーンは戦災で家族と生き別れた記憶喪失者扱いされ暫く自宅（江木家）に厄介になることになった。

しかし、そこは物資が欠乏し電化製品はおろか衣料も十分な食料すらない戦後の大変な占領下の日本であった。生活の不便さに辟易するジェーンではあったがそのなかで学生の友情や家族の濃密な関係を発見する。またその時代の大学生も非常に勉強熱心（学力という意味だけでなく）で自分たちが焼け野原になってしまった日本を立て直そう次代を背負っていかうという気概に満ちあふれていた。

ジェーンは何不自由ない現代平成の日本で無目的に生活し何となく大学に通っていた自分が「自由競争だの能力主義だ」と浅はかに考えていたことが恥ずかしくなる。しかし、それを認めてしまえば自分の存在否定に繋がることから素直になれないでいた。そんな彼女と素直に打ち解けたのは病床の佳江であった。彼女は自分の弱さを素直に認め常に周囲を気遣う性格であった。

ある日、剣道部を見学に行くと江木夢子と試合形式練習をすることになる。この頃の剣道部はGHQの通達で活動禁止され細々と隠れて素振りなどしていたがジェーンと夢子は久しぶりの激しい稽古をしたのであった。激しい打ち合いの末ジェーンは夢子に圧倒されてしまう。気落ちするジェーン。しかし夢子は双方とも負け

でない「相抜け」であるからと言葉をかける。目先の勝ち負けに拘り「合理主義」を標榜してきた自分の小ささや配慮の足りなさに気がつくジェーン。

一方、江木佳江は当時の食料状況のなかで栄養不足に原因する結核（胸煩い）の症状に悩んでいた。この時代にやって来る前にジェーンがコンビニで購入したビタミン剤（サプリメント）と蕎麦（またはカップラーメン）などで一時、小康状態となったが恒常的な栄養不足による病状悪化に悩んでいた。このときに初めてジェーンは自分の専攻の薬学の知識が人助けになるのだということを感じ（体験）する。佳江はジェーンの気遣いに感謝するが何もお返しすることが出来ないで病床を押ししてジェーンのダメージデニムを一生懸命縫い合わせる。また夢子も佳江を心配し、ある日神戸（和歌山？）郊外のほうの親戚の農家に米や野菜を調達しに出かけることを決意する。そして自分の大切な剣道の防具（あるいは本や医学書）を持って行って食料と交換しようとするが、その頃近畿地方には大型の台風「ジェーン」が近づいていた。

佳江を看病するジェーンだがその甲斐なく佳江は衰弱してゆく。ジェーンは専門の勉強に身を入れなかったこと、薬学や栄養学の知識不足だった自分を責める。

落魄するなかでジェーンはタイムスリップ前に歴史の授業で「ジェーン台風」の影響により神戸地域で悲惨な列車の事故が起こっていた説明を思い出し夢子にそれを知らせるため暴風雨の台風のなかにひとり駅に向かう。風雨と疲労で熱が出て体調が思わしくなくなってくるジェーン。間一髪列車の出発に間に合い駅のホームで夢子に事故の予言を伝えることが出来たジェーン。わざわざ自分の為にそのことを命がけで伝えにきたジェ

ーンに夢子は戸惑う。

ジェーン「私を信じて…この列車に乗らないで、そしてあなたはきつと立派なお医者さんになれるわ」

淋しそうに、満足そうに微笑むジェーン。そのときジェーンは夢子の目の前から風のように消えてしまう。

(暗転)

防空壕傍で独り気がついたジェーン。自宅へ戻る途中今までの出来事が夢か現か自信がもてないでいた。

翌日、ジェーンは授業の近代史のレポート発表で驚くような当時を視て来たような発表をして皆を驚かせる。また現在の平和な大学生活を見て何もかもが乏しい暮らしをしていた1950年の大学生活に比べ申し訳ないような気がするとともに、明日に希望を燃やして生きていた当時の大学生が羨ましいような気もする。ため息ひとつつくジェーン。彼女は今まで世の中を斜めに(何でも能率的に深く考えていなかった)見ていた自分が恥ずかしくなり、いろいろなこと積極的に(きちんと深く考えて)取り組むような姿勢になり周囲が驚く。

放課後、大学の図書館に行って自分の大学の歴史を調べ始めるジェーン。そこにはその後、大活躍していた自分の祖母の記録文章と写真が掲載されていた。

(名古屋市立大学の前身、女子医科大学(在学中に名古屋市立大学に名称変更) 卒業生 江木夢子 1952年卒業後日米の架け橋となり大活躍した女医(軍医、後の大佐)の先駆者であるなど)

(おわり)

登場人物（設定）モチベーション（出演者案など）

江木ジェーン（えぎ ジェーン 通称ジェーン 二十歳位 加田穂乃華 オスカープロモーション）

名古屋出身在住 名古屋弁の混じった標準語で喋る。ゆとり世代。性格はやや自己中心的。男女同権やフェミニストなどという言葉が好き（しかし、その意味を取り違えている）。時折見せる寂しそうな顔は彼女の振り舞いが芝居じみたものなのかあるいは地なのか、自分も周囲もわからなくなるときがある。先取性と懐古趣味が同居している。周囲が馬鹿に見えてしまう。「単位だけ取ればいい」という学生を軽蔑している。しかしタイムスリップして訪れた世界で自分よりもっと高潔でおおらかで純粋なたくさんの大学生に出会い自分の考え方の狭さ（本当意味での合理的な考え方とは何か、頭がいいということと学力があるということの違いやなぜ勉強するのかという根源的なこと）と人間としての自分の小ささに気づく。高校までは本格的に剣道をやっていた。宮本武蔵が好きで部屋には関連の資料があり剣道でも二刀流を使う。短い竹刀を持ち歩くことがある。司馬遼太郎とダメージジーンズが好き。

※ジェーンのモチベーションと成長⇨現代の大学教育や入試制度や大学生や大学の在り方に疑問を抱いている。かつての（過去の）日本の状況に見るべき物があると考えている。（だから近代史などの授業に興味を持っている）自分をぎりぎりまで追い込み結果を出すのが好き。オールオアナッシングという主義も見受けられる。自分は合理主義だと考えていたが、かつての日本を見て本当の合理主義（合理主義は能率主義ではない）というものに気がつく。単なる実力主義でなく自らが実力をつけることで人に優しくなれることが大切

なのだということに気がつく。人と競争するだけでなく社会的弱者に配慮するようになる。

服装へアスタイル 現代のジェーンはダメージデニム、白いシャツ、ミニスカートなど。過去の時代ではやや長めのスカート、モンペ、ワンピースなど

江木和雄（かずお 四十五歳くらい。脇田敏博 ジェーンの父。電力会社勤務 昭和の曾じいさん（当時四十くらい）昭和の父と二役。性格は親ばか。子離れしていない。子供を甘やかしてばかり。口癖はワークライフバランス。市役所に勤務していて仕事熱心ではない。いつも部下から突き上げを食っている。事なかれ主義。曾じいさんの時は頑固一徹、大正生まれの男。

※和雄のモチベーションと変化II娘や部下の教育は優しさであり嫌われないことであると考えている。

しかし、時に厳しさが必要であるということに気がつく。自らがわりあい平和な世相に生きてきたので「変革の社会」に戸惑っている。

江木幸恵（ゆきえ 平成と過去の二役。小嶋彩子）四十代くらい。ジェーンの母。平和な時代に育ってあまり物事を深く考えずに生きて来た。専業主婦。自分の娘の扱いに困ったり義理の父の扱いに困ったりしている。何かあってもおろおろするばかり。気だてはとても優しく、娘にも夫にも気配りが行き届いている。※メイクは普通の主婦風。服装もエプロンや部屋着など。

江木夢子（ゆめこ） 尾中琴美 オスカープロモーション 藤原七海と二役）二十二歳くらい。凜とした昭和の女。名古屋市立大学（在学中に名称変更。入学時は名古屋女子医科大学）3・4年生。剣道部の主将。昔の名古屋弁で喋る。ジェーンは最初心開けないでいるが後に和解してゆく。実は自分のおばあちゃんの若い頃。自分の父からはいつも「人間は気組があれば何でも成し遂げられる」と叱責されている。大正や明治生まれの人間に對して常に劣等感を持ち続ける。その反動で国のために命を捧げようと考へあるいは武道に打ち込んでいるのではないかと思われる。示顕流に傾倒し立ち木打ち込みの稽古をよくやっている。よく米突き用の棒を持ち歩いている。病気の妹を大切にしている。

当時は設定の大学には薬学部のなかの医学進学コースには男子学生は1年生しかいなかった。後に医学専門学校は廃校となる。卒業後アメリカに渡り軍属の医療関係者となり大佐級にまで昇格する日本人初の女性アメリカ軍医師となる。

※夢子のモチベーションと変化⇨自分が戦時中に教育された内容が戦後まるつきり方向転換してしまい戸惑っている。戦災で友人を亡くし近しい人を亡くすことに極度の恐れを感じている。また、かつて自分の在学した女子医学専門学校の廃校を知り漠然とした喪失感を感じている。

※メイクは薄く。髪型はシンプルに。白いブラウス、スカート着用。剣道着など。草履や下駄など。

藤原七海（通称 ナナミ ふじわら ななみ 夢子と二役）二十歳くらい。薬学部の学生。ジェーンの友人。ジェーンとは従兄弟、夢子の孫であると思われる。名古屋嬢だが三河弁で喋る。頭にサングラスを載せていることが多い。ブルーなどのカラーコンタクトをしている。高校まではまじめでおとなしかったが大学デビューで弾けた。合コンばかりしている。口癖は「ガチで？」「ヤバイ」など。標準語に憧れている名古屋弁まじりの標準語もどきを喋る。剣道部のマネージャー。高校までまじめ一辺倒だった自分にコンプレックスがありわざとチャラチャラ演じているようにも見える。携帯ばかりいじっていてファストフードばかり食べている。

※七海のモチベーションと変化II自分に関係ないことは関わりたくない。できるだけ楽に結果がもらえれば良いと考えている。世間での「常識」は当たり前なことなのでそこに疑問を持つことはよくないと思っている。中学生時代にいじめられたことがあり周囲に迎合し人と違うことや正論を言うことを極度に恐れている。人に深く関わることも臆病になっている。また社会的なことや難しいことは考えないようにしている。後に歴史に興味を持ち、近代の歴史を我がことのように考えるようになる。

佐藤麻友（さとう まゆ 通称まゆ 配役案 宮川風花）二十歳くらい。名古屋弁のオタク言葉。ジェーンと七海の同級生。佳江の孫などの親戚筋にあたると思われる。高校時代も三人は同じ学校だった。ジェーンと七海にいつも小馬鹿にされている。漫画やオカルトオタク。どこかいつもおどおどして自信なさげに見える。やがて七海やジェーンに優しく接してもらえるようになる。

※麻友のモチベーションと変化IIオタク少女。皆に馬鹿にされているが仲間はずれが怖くて使い走りでも他の人と一緒にいる。

江木佳江（えぎ よしえ 通称ヨシエ 麻友と二役）設定は十八歳位

夢子の妹。女子医学専門学校を休学中。虚弱体質で戦後の頃に結核にかかっている。ジェーンのもっていたビタミン剤や蕎麦で小康状態となるが後に悪化してしまう。薄幸の少女という感じでどんなことにも感謝し常にまわりに気を遣って生きている。ジェーンが薬をくれたことや蕎麦を食べさせてくれたことに感動し逆にそれくらいのもので感謝する姿にジェーンは飽食の環境や、便利が当たり前前で感謝の心を忘れていた自分の姿を佳江に教えられる。夢子は決死の覚悟で佳江のためにかつぎ屋として食料を調達にでかける。

※病人役 色白 メイクは不健康な感じ。髪型は後ろで束ねているような感じか。衣装は寝間着なども布団に入っている感じ。

大学の先生 平成編 柏木（かしわぎ）先生

大学の先生 昭和編 本田（ほんだ）先生 松井真人（劇団あおきりみかん 特別出演）

若い母親 伊坂瞳 天野愛子

愚図る子供 「男」圭太（けいた） 「女」朱里（あかり） 星野七海（金星☆ジュリエッタ）

「女」美里（みさと） 新粥沙里（金星☆ジュリエッタ）

女子高生 K 小島佳奈（こじま かな） 岡野杏奈（金星☆ジュリエッタ）

痴漢 沢尻好郎（さわじり よしろう） 山本知音

大学の友人（平成の学生 A と二役） 村上美香（むらかみ みか） 特別出演

B 青木美子（あおき よしこ） 麻夏彩加（金星☆ジュリエッタ）

C 渡辺藍（わたなべ あい） 近藤綾音

剣道部員 D 山下恵子（やました けいこ）

& 山田（平成の剣道部員 石田安奈（SKE48）

E 木村英子（学帽の女学生（きむら えいこ） 麻夏彩加

F（二役） 田中和代（たなか かずよ）

GIの兵士 Y スティーブン ヘイズ

N アンディ 芸術工学部の英語のアンディブーン先生ほか

GIの彼女 イザベラ

喫茶店の店員 A（平成編 昭和と二役） 鈴木明花

喫茶店の店員 B 岡野杏奈（金星☆ジュリエッタ）

提灯を提げた人 川瀬万由未

大学教室内のエキストラ (昭和編)

大学教室内のエキストラ (平成編)

昭和の街のエキストラ 熊谷温

通りすがりに倒れる男¹ 松岡慧

通りすがりに倒れる男² 熊澤匡平

コンビニ客^A 木下翔生

コンビニ客^B 熊谷温

豆腐屋\紙芝居屋^A 上田定行

用務員のおじさん 石井文彦

紙芝居屋^B 石井文彦 (二役)

友人¹名古屋嬢 神田咲名 (金星☆ジュリエッタ)

男子学生¹ 松本直也

女学生¹ ほか 近藤咲保

※昭和の男 麦わら帽子 ランニングシャツ 刈り上げなど。女性は水玉模様のワンピース、髪は束ねる。

「人物相関関係」(案)

平成時代編

江木ジェーンと藤原七海は友人(従兄弟)だがジェーンは七海の軽さにやや軽侮の念がある。
佐藤麻友は江木ジェーンと藤原七海にやや小馬鹿にされている。

昭和時代編

江木ジェーンと江木夢子(藤原七海)はやや張り合った関係にある。どちらかと言うとジェーンが馴染めないでいる。

江木夢子と江木佳江(佐藤麻友)は姉妹であり仲が良い。

江木ジェーンと江木佳江は素直になれる関係である。

江木家の設定

一戸建て。庭がある。少し行ったところに海がある。昭和の江木家には薪の台所がある。建てられたのは大正時代。昭和の江木家と平成の江木家は立て替えられた、もしくは別の場所に移転したと思われる。

STAFF等

企画/制作 名古屋市立大学芸術工学部 映像研究室

企画/脚本 栗原康之

撮影・絵コンテ・進行指導 松本直也

制作/演出班 川瀬万由未 熊澤匡平 天野愛子 横井玲央那

撮影/録音班 近藤綾音 深井剛 山内和音 木下翔生

衣装/持ち道具ほか 山本知音 鈴木明花

照明班 山本知音 熊谷温 松岡慧

編集 松本直也 小林元輝 熊沢匡平 深井剛ほか

ダビング/MA/効果音 MYXX UP

メイキング 松岡慧

編集/撮影指導および協力 窪寺亨介 小林元輝

撮影指導 人見健一 田中一成

照明指導/応援 HEAT

テーマ曲 作詞 栗原康行

作曲/音楽 水野みか子 (名古屋市立大学芸術工学研究科教授 音楽理論/音楽制作)

音楽協力 名古屋市立大学管弦楽団

ヘアメイク 貝谷華子 小酒井久美子 大南まりあ 大島明日香（ラポーター）

撮影応援 清水陽介 西村真希 赤瀬航 村上亜希子ほか

監修\時代考証 榊原仁作（名古屋市立大学名誉教授 薬学博士）

青山光子（名古屋市立大学医学研究科 名誉教授）

大波多廣文（元名古屋市立大学事務局長・元公立大学協会事務局長）

監修\シナリオ指導

平嶋尚英（名古屋市立大学薬学研究科教授 生物物理学）

竹内浩（名古屋市立大学医学研究科 講師 精神\認知\行動学）

山本明代（名古屋市立大学人間文化研究科教授 多文化社会論\アメリカ社会論）

牧野利明（名古屋市立大学薬学研究科教授 生薬学分野）

英語台詞監修\Andy boone（名古屋市立大学 芸術工学英語 講師）

協力 オスカープロモーション アメージングプロモーション ラポーター なごやロケーションナビ 桑名

ロケーションナビ 大井川鉄道 名鉄 熱田駅前商店街 AKSほか

（以上、敬称略）

